

ケシュ財団に関する知られざる真実の公開

ケシュ財団は人類の夢である、武器と戦争のない世界を実現いたします。皆様ひとりひとりがケシュ財団の技術を利用し、この大きな取り組みの一員となれる時代がもうすぐ実現いたします。

私たちは世界の平和と繁栄の新しい時代の証人となり、ケシュ財団が全世界に公開する技術は、この夢を実現するための設計図となるのです。この技術によって、私たちは地球上に楽園を見出すことが可能となるでしょう。

本日の発表でお伝えするのは、ケシュ財団の今までの取り組みと隠蔽された歴史です。この歴史をご覧頂ければ、なぜ私たちがこの情報を公開に踏み切ったのかご理解頂けると思います。時代を追ってご紹介していきましょう。

2004

-'Creation of black holes' (ブラックホールの創造) と題した論文が英国天文学会にて発表。同日 M.T Keshe博士は英国天文学会より、同じくブラックホールに関して記載し、ブラックホールによるエネルギーの放射はないと記載された博士の論文は公開せず、図書館へ保管し調査する旨の連絡を受け取る。天文学会にて発表されたホーキング博士のブラックホールに関する理論は、10年もの間信じられてきましたが、2014年今月になってホーキング博士はこの持論の誤りを認めました。その際に発表された論文はケシュ博士が元々提出した論文のほぼコピーといっても過言ではない内容となっています。

<http://forum.keshefoundation.org/forum/keshe-official/31282-stephen-hawking-has-abandoned-his-theory-of-black-holes>

-ケシュ博士はBNFL (英国核燃料会社 British Nuclear Fuel:

<http://en.wikipedia.org/wiki/BNFL>) に重力場における力学の確認に関して放射性物質の試験が必要であると問い合わせました。BNFLはファーンバラの軍事航空ショーにケシュ博士を招致し英国国防大臣に引き合わせられました。その際ケシュ技術の検証評価を依頼しましたがケシュ技術についての数々の誤認があり正しく理解されず、協力関係を継続することが出来ませんでした。その後ベルギーのFLAG (ベルギーの宇宙航空研究企業 <http://www.flag.be>) に出会います。元FLAG代表のMr. Karel Vervoort によってケシュ博士はベルギーに招待され技術の検証評価が実現したのです。

-FLAGはブリュッセルにあるVUB大学 (Vlamsse Universiteit Brussel) の Mark Van Overmeire 教授(<http://mech.vub.ac.be/avrg/members/marc.htm>)へ博士を紹介し、ケシュ技術の検証がはじめて行われました。(Report on the Project Proposed by Mr Keshe - 2005参照)

2005

-Mark Van Overmeire教授は、エネルギー生成理論は実現可能であり、ケシュ技術に対して「この技術のエンジニアリングを分析することは重要であり、更に詳細に分析することを薦める」と述べました。その結果、ベルギー政府はVerhaert 社 (http://www.verhaert.com/cms/images/stories/pdf_in_text/groupprofile.pdf) に評価試験を行うよう依頼します。その試験結果はこちらからご覧下さい。評価の後、彼らはこの研究に対して€500.000を投資しパートナーになることを希望しました。

-2005年5月30日付けの電子メールが証するように、Verhaert社は、研究パートナーとして VITO (モルフラマン原子力センター: <https://www.vito.be/VITO/NL/HomePageAdmin/Home>) と協定しました。同メールにて IWT (ベルギー政府の研究協議会 <http://www.iwt.be>) へプロジェクトの資金調達の依頼も行っていきます。

-Verhaert 社との契約のため、ケシュ博士はこの領域に専門特化した弁護士を任命することを依頼しました。Hans Bracquené氏が紹介され、ケシュ博士に代わってVerhaertとの契約を交渉を進めることになりました。この会議は、ルーヴェンのBracquené氏の事務所にて Bracquen氏、彼の秘書、ケシュ夫妻の4人が立ち会って行われました。ケシュ博士は Bracquené氏がVerhaertの弁護士も兼任し、彼自身が契約書を書いていたのではという疑念を抱きました。これは明らかな違法行為であり、これを追求するとBracquené氏は事実を認め、さらに彼はケシュ博士が共同作業をすることを拒否した場合、ケシュ博士を暗殺しようとしていた4企業の名前も明らかにしました。この会議は直ちに切りやめとなり、その後のベルギー政府との問題が勃発するきっかけとなりました。もう一つ事実として、Bracquené氏は VITOモルフラマン原子力センターの顧問弁護士も勤めていたのです。

-更にBracquené氏はベルギー政府の研究協議会であるIWTの顧問弁護士でもあり、2003年にはヴァンメッヘレン大臣の内閣責任者であったと同時にルーヴェンにある IMEC (http://www2.imec.be/be_en/home.html) の最初の礎を築いた人物でもあります。 <http://www.dirkvanmechelen.be/2003/minister-legt-eerste-steen-van-nieuwe-imec-gebouw/?foto=0>

-下記の記事は2003年12月19日、De Standaard紙にて掲載された記事の抜粋です。 http://www.standaard.be/cnt/dst19122003_008

「内閣の責任者はもはや制御できない」ブリュッセル -ディルク・ヴァン・メッヘレンの内閣の責任者Bracquené氏は、技術研究所IWTの政府委員としての委任された。目的は、相反する利益を除外することである。

Bracquené 氏(<http://www.iplodge.be/team-hans-bracquene.html>, <http://www.birmingham.ac.uk/research/activity/iel/news/2013/trybus-ESA.aspx>, <http://www.bracquene.be/en>) は、疑いようもなく革新的な技術の法的な専門家でありフランドル地方議会への介入は昨日この表明を持って始まっています。しかし、Bracquené氏は同時にIWTにおいて、内閣においても責任者であり、その上彼は(12月18日の紙面を参照)ハ

イテック企業の法的コンサルティングも行っていました。彼の立場は大臣の意思決定に関わり、IMECのような技術に対し数百万ユーロを与えているのです" (IMECの顧問弁護士として)

興味深い点として、英国防衛省が所有する、ファーンバラに本社を置く多国籍防衛技術会社キネティック社は (<http://en.wikipedia.org/wiki/Qinetiq>)2005年9月にVerhaert社の90%のシェアを獲得しています。これは防衛の英国省が行った英国外での唯一の投資です。

キネティック社はこの投資に€ 10.000.000を費やし、ケシュ技術を手に入れようと試みましたが、この技術を利用するための最も重要なイグニッションキーともいえる技術が欠けていることがわかり、返金を求めましたが応じられませんでした。

-その証拠としてDe Tijd紙にもこのキネティック社のVerhaert社の買収は報じられていますが、明らかに本当の理由は報じられていません。

http://www.tijd.be/nieuws/ondernemingen_technologie/QinetiQ_zet_satellietbouwer_Verhaert_Space_in_etalage.8195332-436.art

2006

-ケシュ博士は E-Capital 社(ベンチャーキャピタルエンジェル <http://www.e-capital.be>) に投資を申し入れました。その際、彼らはケシュ博士にIMEC との機密保持契約に署名しすることを求めました。IMECはE-Capital 社の大株主でもあります。

-ルーベン大学の原子力部門の責任者である William D'Haeseleer教授 (<http://www.kuleuven.be/wieiswie/en/person/00014331>) がIMECによって任命され、ケシュ博士のエネルギー技術の評価を任せられました。E-Capital 社の取締役2名がこの技術は90%~95%が正しいという結論に合意しましたが、彼らはそれにも関わらず、この技術はいずれにせよ否定しなければならないと述べています。この評価は、SUEZ (<http://www.gdfsuez.com>)に原子炉を国家資産として無償で提供しようベルギー国会に進言した科学者達が行ったのです。

-E-Capital 社の取締役の要請により、IMECは交渉の途中で、コカ・コーラのペットボトルからナノ物質のSP2層とSP3層を生成するケシュ技術の独自の評価を行っています。それまで地球上で不可能とされていた、SP2ナノレイヤーとSP3ナノダイヤモンドレイヤーが生成されたことを確認する報告書が制作されています。これは最も大きな技術革新です。ケシュ財団に保管されているIMECの弁護士からの手紙には、**機密報告書**でこのような発見を開示することケシュ財団を禁止する内容が記載されています。(IMEC Raman Spectroscopy Report - 2006参照)

特記；ケシュ財団は世界の人々全てによって所有される慈善団体であり、その結果、全ての人々の特権として機密保持契約の侵害を心配せず、ケシュ財団の提供する情報を知る権利を持っていると考えています。

-このレポートに記載されているナノ物質は、2014年1月30日に公開された福島を除染技術を公開したビデオで利用したのと同じ物質です。

<http://www.youtube.com/watch?v=VpQbGwqSGRg&feature=youtu.be>

本報告書において、IMECは、SP2とSP3を生産を核物質を利用しなくても実現するシンプルな行程を理解していないにも関わらず、ケシュ財団が生成に核物質の利用を行っているとは非難し、不正な犯罪者組織だという風評を広めました。これも Bracquené氏によってベルギー政府の安全保障構造に基づいて施行されました。

2006年末、ベルギー政府の要請により、SCK原子力センターはコカ・コーラのボトルとボトル内で生成される物質の分析を続けるよう要求します。この試験によってγ線やウラニウムやプルトニウムを利用せずナノ物質を生成する方法を研究しました。この報告書の中で、生成物質の炭素含有量も確認されています。（資料：SCK PET Reactor Analysis and Diagnosis - 2007参照）

2009

-オペル社が倒産。ベルギー政府は、アントワープのオペル工場の引き継ぎをケシュ財団に打診しました。この交渉の期間、ケシュ財団はベルギー国内の科学団体との協業を厳しく制限されていました。

2010

-ケシュ博士がカナダにて逮捕されました。 <http://www.keshfoundation.org/media-articles/keshe-news/124-canada.html>

ケシュ博士の逮捕は所有していた書類やUSBの検閲を目的とした空港乗り換えの際の一時的な取り調べであり、すぐ釈放されました。

-犯罪組織からケシュ博士暗殺の恐喝がありました。特別警察による隠蔽はベルギー政府配下の犯罪組織によってコントロールされており、ベルギーの科学者を迫害する目的で行われました。

-Elektor誌にケシュ財団の技術に関する記事が掲載されました。Elektor Article - 2010参照

2011

-警察は11月25日にケシュ博士が翌26日のEindhovenのカンファレンスにて公開予定だった技術の一部をブロックしました。

-続いて28日の月曜、ベルギーにて、高速道路を走行中のケシュ博士の乗用車にリモコンで爆発する小型爆弾による暗殺未遂事件が起きました。これは IMECが科学者の口封じを行うための典型的な手法として知られています。

2012

-ベルギーのあるカフェにて著書を執筆中だったケシュ博士の元へ、ベルギー国王のアルバート2世が訪ねて来て会話が交わされました。右の写真はその際の様子の写真です。
(ケシュ博士中央)



しかし数日後、カフェのオーナーの元へ国王の家臣から連絡があり、ケシュ博士はテロリストなので至急追放するよう命令されました。

-ブリュッセルのFANC (Federaal Agentschap voor Nucleaire Controle:

<http://www.fanc.fgov.be>) の責任者が、ベルギー政府から委任されケシュ博士にベルギーを退去するよう命じました。

Naturopathica (自然療法協会) によって、ケシュ財団のプラズマセラピーが認められました。

Naturopathicaによる**証明書**はこちらからご覧下さい。(Naturopathica Certificate - 2012参照)

2013

FANCの命令に従わなかったケシュ博士に対して、8人構成の暗殺部隊が連邦警察内によって組織され、ベルギーの自宅に事故に見せかけた暗殺を企てました。
ケシュ博士は連邦警察の更なる暗殺の企てを恐れ、ベルギーを離れました。

2014

-ケシュ財団に対し、以前に起こった2件の暗殺事件関与し、取り調べを行った警官によって、連邦警察による更なる攻撃が始まりました。一部の良識あるベルギー警察署の警察官によって、ケシュ博士に警察署で行われた取り調べが犯罪的であり、連邦政府の依頼によって手配された犯罪組織によって指示されていることを確認しています。

この情報開示は、ケシュ財団の2014年の目標に基づき宣言された‘世界平和協定’の実現への取り組みの一部です。 <http://forum.keshfoundation.org/forum/keshe-official/30510-2014-the-year-of-the-change-for-the-humanity>
[Link to the forum post copy](#)

この新たなる技術と知識は世界中の主な問題のほぼ全て、飢饉、水不足、電力供給不足、気候変動や病気を、プラズマリアクターを利用することで解決することが出来ます。そして私たちは宇宙をも自由に移動する技術を提供することが可能になるのです。

本発表にあるように、ケシュ財団の技術は10年もの間正しいことが証明されてきたにも関わらずベルギーの連邦警察のBracquené氏や同警察官のDelanoy氏の脅威の元に隠蔽され続けて来ました。

我々は宇宙の知識を皆様と共有することにより、すべての地球に生きる人々のため、豊かで健康的な喜びに満ちた生活を実現するよう研究を進めて参ります。私たちの技術と知識は皆様に自由にご利用いただけます。

私たちはもはやこの虚構と情報操作によってねじ曲げられた現実を受け入れるべきではありません。私たちはひとりひとりが心を開くことで、この地球に天国を実現する力を持っていることを改めて認識いただき、地球上のすべての命を尊重する新しい文明と一緒に築きましょう。

2014年2月26日 ケシュ財団

